

授業科目名	ダンスワークショップ実習C	担当教員	木田 真理子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年第2クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンスを教える際に必要な創造力ないし技術を培うものである。自らの身体感覚を言語化し、他者との身体感覚の違いを認めることで、ダンスを様々な方法で共有する。短期間で集中して（夏季集中講義になる）、ダンスティーチャーの仕事ならびにダンス教育を巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.ダンスもしくは身体系ワークショップを企画することができる。 2.身体感覚を言語化することができる 3.インストラクションを明確に示すことができる。 4.ダンスティーチャーやダンス教育の経験を活かした仕事の企画を立案できる。 		
授業計画	<p>受講人数によって変更する可能性があります、大きくは以下の内容を用意しています。6～8日間の集中講義（合計48時間）。</p> <p>本実習では、受講生が実際にワークショップをファシリテートする機会を提供しています（学内実習のため、クラス内で役割を変えて実施します）。ワークショップは事前準備がとても重要ですが、現場の状況によって臨機応変に対応しないといけないことも多々あります。実際にファシリテートにチャレンジすることで、他者との向き合い方、環境が体に与える影響、グループダイナミクス等について学びます。</p> <p>近年国内外で実施されているワークショップの内容はとても幅広く、異なるバックグラウンドをもった人たちがコラボレートしながら実施するワークショップも多くなってきました。ひとりの人間が得られる知識には限界があり、また提供できる情報にも限界があるため、実習ではクラス全体で一緒にアイデアを練り上げたり、アドバイスをし合ったりすることも大切にしています。</p> <p>（進め方 一例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：イントロダクション 授業内容・目的・スケジュール・成績評価方法の説明。 身体系ワークショップの企画立案をする。 2：ワークショップをデザインする ワークショップの目的を明確にしたあと、場所、配置、参加人数、時間等の設定を考える。 3：ワークショップを試験的に実施する。 4：フィードバック、内容の練り直し 		

	<p>(＊ 2～4 を繰り返し行う)</p> <p>5 : ワークショップの実施 (発表) とフィードバック①</p> <p>6 : ワークショップの実施 (発表) とフィードバック②</p> <p>本実習の詳しい内容については実習説明会であらためて説明します。</p>
事前・事後 学習	<p>実習が始まるまでにどのような身体系ワークショップを企画したいか考えておくこと。事前課題としてワークシートを配布しますので、必ず記入して提出してください。実習後は報告書 (レポート) を提出していただきます。</p>
テキスト	<p>特に指定なし</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ハナムラチカヒロ『まなざしのデザイン〈世界の見方〉を変える方法』(NTT 出版、2017 年) ・テクタイル『触楽入門 はじめて世界に触れたときのように』(朝日出版社、2016 年) ・伊藤亜紗・渡邊淳司・林阿希子『見えないスポーツ図鑑』(晶文社、2020 年) ・堀越英美『モヤモヤしている女の子のための読書案内』(河出書房新社、2019 年) <p>ほか、適宜紹介する。</p>
成績評価 の基準	<p>平常点 : 60% (授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げを評価する)</p> <p>発表点 : 40% (プレゼンテーション ; 20%, 提出物/報告書 ; 20%)</p>
履修上の注意 履修要件	<p>全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は 教員とよく相談の上で履修してください。</p>
実践的教育	<p>芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>実習の詳しい内容については、実習説明会や実習初日に説明します。 履修を考えている方は履修希望書の提出をお願いいたします。定員を超える場合、担当教員が希望書を読んだうえで選考をおこないません。希望書の無記入、締切後の提出は選考に影響しますので、気をつけてください。</p>